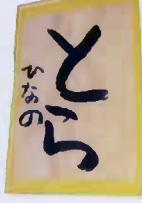
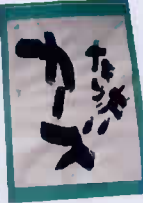
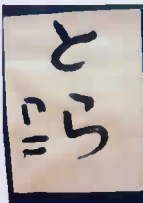
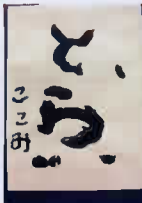
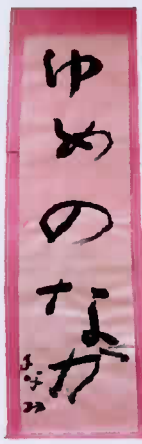
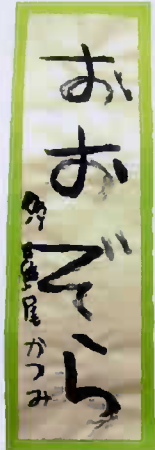




# おおぞらだより



第4号  
平成22年 1月 29日発行  
社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団  
おおぞらのいえ  
〒651-2181  
神戸市西区曙町1070  
TEL (078) 927-2727 (代)  
FAX (078) 925-9253



春は晴、夏は夜、秋は夕暮れ、冬はつとめて(早朝)がよいと古の女性が書いています。冬は、火桶に炭をおこして暖をとるくらいしかすべのなかつた時代です。部屋の防寒も悪く、さぞかし寒かったことでしょう。それをあえて雪や霜が降りて冷たい早朝や、凍てつく寒さの中で働く人という風景に目を向け冬の趣として描くさまは、暖房器具にくるまれてぬくぬくと暮らす現代人が失ってしまった季節によせるすぐれた感性によるものでしょう。

施設では冬至が過ぎ、クリスマスも終わりのイルミネーションのサンタやトナカイもいなくなり施設は少し淋しくなりました。でも、学校が冬休みに入り、子どもたちは、お正月が明けるまで少しノンビリとした気分と開放感のなかで騒がしいほかに元氣です。

2009年を振り返って一番に思うことは、まず子どもたちが大きな事故や病氣にもならず健康に過ごせたこと、そして職員も彼らに負けず劣らず元氣に過ごせたことです。いきいきとして健康であることは何物にも代えがたい大切なことだと思います。

来年度から近隣の幼稚園に1名の児童が通うことになりました。子どもの足では園まで歩いて30分はかかるのですが、そこで大勢の友達に会うことが楽しみで体験入園の日が待ち遠しいようです。施設から地域の幼稚園や小学校、中学校に通おうとすれば、本人、施設、学校にも課題が生じます。一つ一つの課題を克服することを通じて、子どもと共に施設や学校も成長して行かなくてはなりません。



2009年を振り返りつつ新しい年に期待を込めて  
肢体不自由児療護施設 おおぞらのいえ  
所長 松浦 剛

現在、定数20名に対し11名が入所しています。来年度早々には1名が予定され、2名が調整中です。ゆっくりですが利用は増えつつあります。

シヨートステイは4名の枠ですが、地域に認知されるようになり、最近では常時の医療を必要としない重度心身障害児の緊急利用や、入所に向けた試しとしても活用されています。

デイサービスは、身体障害児を中心にしながら、発達障害児も11月から受入れています。彼らの動きにも対処できるように2クラス制としています。定数が10名に対し、契約者数は12名となり、少ない時で5名、多い時には10名の子どもたちがいます。利用は、保育所や幼稚園への待機であることが多く、その年齢になると地域の保育所や幼稚園に移って行きます。その意味ではデイサービスは、障害を持つ子どもたちのスムーズな地域移行への短期間の支援の場となっています。

年を経る毎に、子どもたちは肉体的にも精神的にも成長し、互いの連帯感も強まっているようです。おおぞらのいえという集団生活のなかで、心はどんな風に育っていくのでしょうか。彼らの心象風景のなかに、施設や職員はどんな位置や形を占めていくのでしょうか。

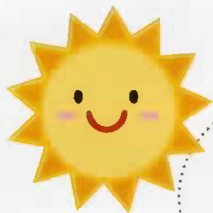
2010年は、1月8日の3学期のスタートから普段の生活が始まってきます。子どもたちが新しい年を元氣で過ごせることを願ってやみません。

## 「おおぞらのいえの外出活動」

おおぞらのいえでは、外出活動として2週間に1回、個別的な買い物や公共施設、公共交通機関の利用の練習をしています。

活動内容は、未就学児童、幼・小学部の児童は、図書館で本を借りる、予算内で欲しい玩具を買う、おやつを買って食べるなど、職員が前もって計画を設定しています。高等部の生徒は、切符や物を買うのは自分で行います。また、本人との事前の話し合いで希望を聞き、映画を観に行ったり、美術館へ行ったりと、利用者の趣味を活動に取り入れるようにしています。利用者の年齢や発達段階に合わせて外出活動を設定することで、最終的に、自分でお金を管理し、どうやって使うか、先の見通しを立てて行動していくことを身に付けて欲しいと考えています。

利用者は外出活動を一つの行事として楽しみにしています。一般家庭に比べ、施設利用者にとって外出は、行きたい時にすぐには行けず、非日常的なものかもしれません。利用者にとって余暇の一つとして、出かけたい時に出かける、ことができる活動になるよう施設支援の充実を図っていききたいです。



おおぞらの子どもたち!  
みんながんばってます♪



初詣に  
行ってきたよ!!



寒くても  
平気、へいき!



クリスマス会☆  
この後、サンタさんから  
プレゼントをもらったよ!



自立生活訓練センターの  
屋上までお散歩



## 「親子遠足」

## 児童デイサービス

デイサービスでは、年間を通して様々な行事を計画・実施しています。その中でも気候の良い秋の「親子遠足」は児童、保護者、そして職員も楽しみにしている行事のひとつです。今年度は、11月に西宮のからぼーと甲子園にある「キッサニア甲子園」に行ってきました！保護者の方の感想を含め、そのときの様子ををご紹介します♪

☆今回、初めてキッサニアへ行きました。消防士になったり、大好きなバスに乗ったりできてとても楽しかったです。

三木 様

☆親子共々とても楽しみにしていたキッサニア♡子どもにはすごくいい経験になりました。

若狭 様

☆キッサニア甲子園最高！本当に楽しかったです。ドングのパン作り・モデルになりました。香胡末もなりきってVサインで満足していました。

長岡 様

☆キッサニアでは、パトカーや宅配車等の乗物がたくさんあって、まあくんも大喜び。消防隊員になって消防車に乗り消火活動もしました!!

首藤 様

消防士、車の修理屋さん、車掌さん、ファッションモデル、パン屋さん…小さな主役が大活躍の日でした。この経験が児童の輝かしい未来に、役だってくれるといいなと今日も願う職員一同であります。

## 『セラピストの関わり』



私たち自立生活訓練センターの理学療法士2名、作業療法士2名は、定期的に児童デイサービスと療護施設に行って専門相談を行っています。具体的には、子ども達の姿勢や移動方法、運動や遊びでの専門的なアドバイスをを行っています。また、使用している福祉用具の調整や相談にも応じています。今後の取り組みとして、中央病院で小児リハビリテーションを受けている子ども達の担当のセラピストからの情報交換やカンファレンスの調整を行うことで、子ども達がより良い生活が出来るように施設間の架け橋になっていきたいと考えています。





## スタッフしようかい



おおぞらのいえに、新たなメンバーが加わりましたので紹介いたします。これから職員一同、力を合わせて頑張ります！

### ～支援員～



井上 貴文（支援員）

初めまして。今までは病院を中心に働いてきましたが、新しい施設で新しい仕事に取り組んでいきます。

### ～児童ティサービス～



小椋 かがり（保育士）

20数年のプランクがあり不安はありますが、かわいい子どもたちと、目標に向かって一歩一歩前進していきたいと思えます。



吉川 佳奈（支援員）

毎日、子どもたちに元気をもらって楽しく一緒に過ごさせてもらっています。子ども達の元気に負けないようにがんばりたいと思います。

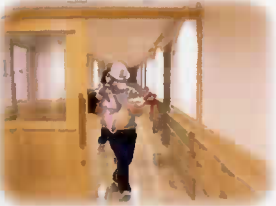
## 「避難訓練について」



おおぞらのいえでは、月に一回避難訓練を実施しています。その内容は主に夜間の火災を想定していることが多いですが、他にも震災想定訓練・消火器訓練・災害のDVD学習など様々な事を行っています。

始めは、大きな音や普段と違った雰囲気になってしまっていた子ども達も、今では（職員よりも？）落ち着いて訓練に参加することが出来ています。お互いに口の前に人差し指をあて「しっ。」と言いつつ、訓練終了後に「かじです。かじです。」と職員の放送を真似ての、避難訓練「しっ。」は微笑ましい限りです。

一方職員は、訓練や避難方法などに毎回頭を悩ませています。児童の成長に対応し、より効率的で、安全な避難方法とは…。今後も児童の安全を第一に、訓練を重ね、万が一の事態に備えて行きたいと考えています。



## 編集後記

おおぞらのいえには、昨年の秋にかわいい「らんちゅう」の赤ちゃんが仲間入りしました。

子どもたちはとっても嬉しいようで、毎朝水槽をのぞいて「おはよ」と声をかけたり、えさやりも積極的にしてくれています。そのおかげでとっても大きくなりました!! おおぞらのいえに來られた時は、是非水槽をのぞいてみて下さいね。

